

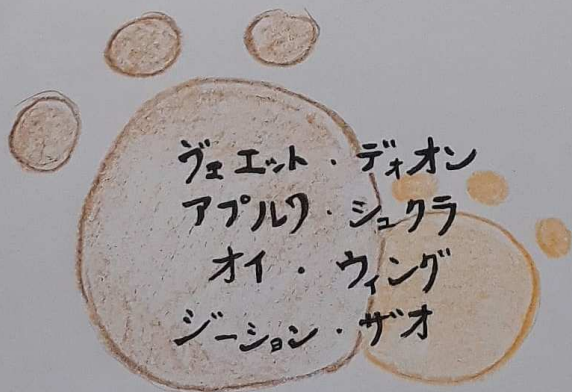


ねこ村の

くまさん



ねこ村の
くまさん



ゲェット・テォン
アプルワ・シュクラ
オイ・ウイング
ジーション・ザオ

せんそうが おわりました。
くまさんは へいたいさんだったので、
しごとが なくなってしまいました。

「つかれたなあ」



「おなかがすいたなあ」

「あしがいたくて あるけないよ」

くまさんが
あるいて、あるいて、あるいて、
ようやく村が 見つかりました。
「ここで すこしやすもう・・・」
くまさんは おもいました。



この村は ねこが
たくさんいて、
どうやら
ねこの村みたいです。
くまさんが
村に入ったけど...

「すまん、ここはねこのためのびょういんだからきみのためのくすりはない。」



「こまりますよ、きみはこのホテルにはおおきすぎるし、おかねをもっていないんでしょう・・・」



「ちょっと！あなた、じゃまですけど！」





やさしいや

さか「な」や

「あのきずあと、みて！」

「みて、あのあし！」

「こわいよ・・・」

「おかしい！」

「あしないじゃん！」


ネコ

コ

村

むら

村のだれにも うけいれてもらえなくて、
くまさんは とてもかなしくなりました。



「この村はムリだ。どっかいこう。」
くまさんは なきながら もりのおくへ
トボトボと あるいていきました。

くまさんは とってもとっても
かなしかったので、
あとをついてきた
ねこちゃんのこと
にきぎませんでした。

やがて、くまさんは
もりのみずうみに つきました。
つかれたくまさんは みずうみのそばで
ひとやすみを することにしました。

ハア・・・

「ぼくは なにをしても
ダメなんだ。
かなしいなあ。」

みずにうつった じぶんのかおをみて、
もっとかなしくなりました。

おなかがすいた くまさんは
さかなを とろうとしました。
そこにとつぜん、



くまさん

さけぶこえが きこえました。
そこにいたのは、くまさんのあとを
ずっとついてきていた ねこちゃんでした。

「な、なんでここにねこが・・・」
くまさんは こわがってしまいました。



「くまさん、どうかこわがらないで。
わたしは、あやまりにきたのです。」



「あやまるって？」



「そう、ごめんなさい。さっき、みんなが
くまさんに いじわるをしてしまいました。」

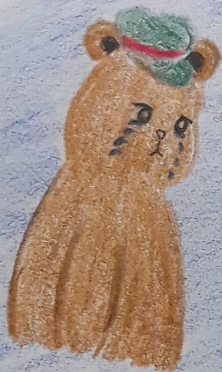
でも、くまさんは いました。

「ううん、いいんだよ。

どうせ、ぼくは なんにもできないんだもん。」



「せんそうで たたかって、
あしにケガをして、
うちにかえりたかったけど。
このからだでは なんにもできないよ。
ああ・・・ぼくなんて・・・」

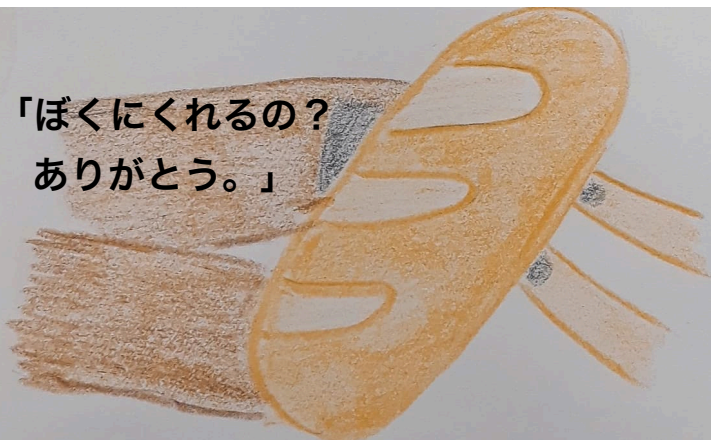


「くまさん、くまさん！
なかないで！
ほら、パンたべて！」



ねこちゃんは そういいながら、
カバンから おいしそうなパンを とりだしました。

「ぼくにくれるの？
ありがとう。」



くまさんは おれいをいって、
パンを ひとくちたべました。

「おいしい、なんておいしいんだろう。」

「ほんとうに？

ありがとう、くまさん！

このパンは わたしがつくったの！」



それをきいて、くまさんは
びっくりしました。

「すごい！パンが
つくれるんだ。」



「うん！わたしのうちは パン屋さんなの！

わたし、まいにちがっこうがおわったら

みせをてつだうの！

ホカホカのパンが できあがるのをみると、

とっても しあわせなきぶん！」

くまさんは ねこちゃんの たのしそうなえがおを
みているうちに、おもわず えがおになりました。



「きみのゆめはパンやさんになることなの？すごい！きみならできるよ。じぶんもこんなゆめがあったらいいな。」

「うん！あたらしいパンもつくってみたい！あ、でも・・・」



「わたし、パンのつぎに さかながだいすきな
いつか、さかなのサンドイッチを
つくりたいんだけど、
わたし、およげないし、つりもへただし・・・」

そこで くまさんは おもいつきました。



「さかな、とってあげようか？
ぼくは つりが とっても
とくいなんだよ。」

「ほんとうに？
くまさんすごい！
ありがとう！
たすかる！」

それから、ふたりは みずうみで
たくさんさかなを とりました。

ねこちゃんはおおよろこびで、
くまさんを
村むらにつれて
かえりました。



「ぼくも だれかのやくに
たつことができるんだ！」

うれしそうな ねこちゃんをみて、
くまさんも とっても
うれしくなりました。

そのあと、
ふたりで いっしょにかんがえた
さかなのサンドイッチは、
^{むら}村でだいにんきに なりました。



^{むら}村のみんなは、さいしょは くまさんのことを
こわがっていたけれど、いまでは
くまさんのことも、くまさんのつくったパンも
だいにんきになりました。

くまさんは ねこちゃんといっしょに
パンやさんで まいにち
たのしく はたらいています。



それから、
くまさんは もうかなしくありません。
いつもえがおで とてもしあわせです。

ねこ村のくまさん

2019年5月

Affiliation

JAPN 135C Japanese for Professional Purposes
カリフォルニア大学サンディエゴ校プロフェッショナル日本語

Authors

| | |
|---------------|------------|
| Viet Duong | ヴィエット・デュオン |
| Apurwa Shukla | アプルワ・シュクラ |
| Oi Wong | オイ・ウオング |
| Zhixiong Zhao | ジーショーン・ザオ |

Special Thanks

| | |
|-------------------|-------------|
| Kristen Benndorff | クリステン・ベンドルフ |
| Zhiqing Xiao | ジーチン・シャオ |

Background

カリフォルニア大学サンディエゴ校の日本語の授業の一環で、「子供の貧困」というテーマに出会いました。この「子供の貧困」というのは近年日本で大きな社会問題となっていて、同じ興味がある学生同士でグループになりどのような社会問題なのか、現状や対策、そもそもの問題の根底などを調べました。リサーチの結果、私たちが実際に貧困問題をどうにかすることはできませんが、貧困が子供の自己肯定感の低下や自立の妨げに繋がっていることがわかりました。そこで学生である自分たちに何ができるのかを考え、日本の子供たちにインタビューをしながらアイデアをもらい、絵本を作ることになりました。

Purpose

この絵本作りでは、子供たちの自信と自立のサポートをすることが目的です。直接的ではありませんが、自己肯定感をテーマにしてストーリーを考えました。子供たちに親しみを持ってもらえるように、絵本のキャラクターは動物です。くまとねこが登場します。この絵本を通して、くまさんのような自立心と、ねこちゃんのようにいじめられっ子を助ける勇気子供たちに持ってもらえたらと願っております。



ねこ村のくまさん

2019年5月

カリフォルニア大学サンディエゴ校 プロフェッショナル日本語クラス